

<司令官ケネス・メイナー大佐の2020年3月8日のビデオメッセージ（要約）>

私が子どもの頃、母がカナリアと猫を飼っていました。カナリアは毎朝、美しい歌声を聞かせてくれましたが、鳥かごのすぐ下では猫がじっと座って待ち構えていました。いつか食べてやろう、と狙っていたのでしょう。ある日、家の者がみんな留守にしている間に、事件が起きました。帰ってくると、カナリアの姿は無く、猫の口に羽根が加えられていました。母は猫に怒りました。世界にはいろいろな鳥がありますが、イザヤ書40章28節から31節には鷺が出てきます。鷺は、嵐が来た時に、岩陰に隠れるようなことはしません。大きな翼を広げて、嵐の中を飛び立ち、大風を受けて、天へと高く舞い上がって行くのです。そして自分の下に嵐を見晴るかすのです。聖書は、神を信じる者は、鷺のように空を昇ることができる、と約束しています。皆さんは今、嵐を経験しているのでしょうか。しかし、私たちも、この聖書の約束を受け取り、信仰の翼を大きく広げるなら、神様の臨在のそば近くへと引き上げられて行くことができるのです。そして、自分の足の下に嵐を見晴るかすことができ、平安を経験することができるのです。祈り：神様、どうかわたしたちに、鷺のように物事を見る目を与えてください。今のこの嵐のような状況を、鷺のように見晴るかすことができますように。そして、神様が与えてくださる平安、希望、慰めをもって、私たちが周囲の人々に手を差し伸べるようにしてください。聖なる主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン